

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると(1号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来変わらず「最後まで住み慣れた場所で。そして最後まで自分の好きな事をしていたい。」この思いを大切に、私たちのグループホームはターミナルケアまでを取り組んでいます。また「ゆったり、楽しく、仲良く」と、少し変わった理念ですが、その意味を深く考えスタッフは心のこもったケアを行っていきたくと考えています。1日1日、今この時を大切に、入居者とスタッフが同じ時間を穏やかにすごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内には、グループホームの他、開内科医院・老人保健施設・特別養護老人ホーム・ケアハウス等があり、その人に合った高齢者サービスを受ける事が可能であり、地域高齢者の医療・福祉の拠点としての役割を果たしている。その中でグループホーム「ると」は、認知症の18名を受け入れ、「ゆったり・楽しく・仲よく」を実践している。特に力を入れているのが食へのこだわりであり、三度の食事は手作りで冬は温かく、夏は冷たい物、そして旬の食材を取り入れておいしく食べてもらう努力をしている。職員は、入居者個々の生活リズムを把握しており、自分の仕事に誇りをもって利用者と共に、楽しみながら暮らしている様子が確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・家族からの要望を受け「ゆったり、楽しく、仲良く」との分かり易い言葉で作った理念を掲げ、スタッフ全員が共有し実践できるように努力しています。	開設以来、利用者を「入居から人生の最期まで共に暮らすホーム」として受けいれている。利用者を見守り、語りかけ、できない事の手助け等を行い、日々の暮らしが健康で安全に過ごせるよう「ゆったり・楽しく・仲よく」のシンプルな理念を共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が所在する地域の行事にはスタッフが準備などの協力をしている。地域への奉仕作業も続けている。	医療法人「開会」は地域の人々に「ひらきさん」として親しまれており、併設の医院受診の折りにホームを訪ねてくる人もある。地域の「下浦祭り」の時は、毎年獅子舞が来訪し、敷地内の全施設を回って利用者を楽しませている。	地域の老人会の方々の施設見学は、ホームの理解に繋げるいい機会だと思われる。積極的な働きかけで実現できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでは地域の老人会の施設見学などの話が時々であるが実施には至っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、偶数月の第3木曜日に開催している。会議内容はとの行事や出来事を写真を使っての説明を行ない、分かり易いようにしている。推進委員会からのご意見はスタッフ間で共有している。	運営推進会議は、老人会長・消防団・社協・地域包括・家族と利用者で構成されている。毎回、行事や誕生会等の様子を撮った写真を資料として、ホームの活動を報告している。消防団員の委員からは、防災面での助言や避難訓練等のアドバイスを得ている。毎回、各委員から活発な意見や質問が寄せられ、ホーム運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上不明な点や解釈に困ることなどは、市の担当者へ質問票で尋ねている。また、市事業の安心相談員の受け入れ協力体制をとっている。	市の実地指導や、平成28年度から始まった「介護あんしん相談員」を受け入れている。市への質問事項は「質問票」によって問い合わせしており、そのやり取りは一冊のファイルにまとめられている。又、「運営推進会議録」は市への提出が義務づけられており、ホームへの理解が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準を満たした上で、スタッフの知識向上につながるよう勉強会を工夫している。	ホーム内に「身体拘束委員会」があり、身体拘束に関するアンケートや、事例を挙げての勉強会等を行い、身体拘束をしないケアについての意識を深めている。職員は自分のケアのあり方を振り返り、改善が見られているが、管理者は定期的に研修する必要があると考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で声を掛け合い、ケアの方法が虐待に当たらないか振り返るようにしている。ニュースになった記事などは全スタッフに共有して考える機会をつくっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し、適切な対応ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にご家族に説明を行い同意をもらっている。ご家族様からの質問などわかりやすく回答するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご質問やご意見はスタッフ間で共有し、必要であればスタッフ間での話し合いを行うようにしている。ご家族様の面会時は入居者の様子を説明しご意見など言いやすい環境になるように心がけている。	ホームでは、一年を通してそうめん流し・すいか割り・夏祭り・大運動会・誕生会等を行っており、その様子は写真に収められている。又、洗濯物たたみやリビングでくつろぐ日常の写真もあり、面会時に伝えている。面会が少ない家族には、毎月の請求書送付の際に写真と職員のコメントを添付して、家族の安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し、自由な意見が出来るような雰囲気作りをしている。参加できないスタッフからは前もって意見を聞いておくようにしている。	職員不足が否めない現状の中で、人員配置を考え、休み希望調整にも配慮しながら、利用者への対応が不備にならないよう、全職員で意見を出し合い協力し合う体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や、目標管理シート、職業性ストレス簡易調査票を活用し、勤務状態の把握と職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修会を開催したり、施設外への研修にも可能なかぎり、参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に参加し、意見交換を行っている。今年度ははるとの施設見学も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能であれば面談を行うようにしている。顔見知りの状態を作り入居時不安が少しでも減らせるようにしている。又ご本人様の今までの生活状態や環境、人生史なども把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを聞き出し、ケアの中に取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いやニーズをふまえ、適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の重度化に伴って、できる役割が少なくなってきたが、可能なことはお手伝いをお願いし一緒に行なっている。また、食事も同じ時間に摂るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは面会時に状態報告をおこなったり、電話などでも報告を行うことがある。面会の少ないご家族様へは状況報告の連絡とともに面会依頼も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、馴染みの人との交流が継続できるように面会の依頼や外出をするなど支援している。	併設のケアハウスや通所リハに来ている友人・知人を歓迎し、再訪をお願いしている。又、月2回、傾聴ボランティアとして利用者と同年代の人が来ており、回を重ねる毎に馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考え席などのセッティングを行っている。入居者同士の会話などの職員が様子をうかがいながら状況次第で間に入るなどの対応をおこなっている。会話の援助もおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があった場合にはその都度対応をおこなっている。施設での看取りをおこなった方は初盆参りなどもおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの意向確認が困難な場合でも、ご家族や関係機関などから情報を収集し、意向把握に努めている。	入居前に「環境変化による事故防止に関するお願い」として入居前の生活環境と生活状況について書面で回答を得て、入居後の生活における、思いや意向の把握に活用している。100歳になる男性利用者には、おいしく食べて、気持ち良く眠り、時々ホーム内を散歩する等、本人の思いのままの暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様へ人生史などを尋ねている。また利用されてきたサービスなども把握し連携をとり、利用事業所からの情報をもらえるようにしている。知人や友人の面会時には会話からの情報を得たり、お尋ねするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人のペースで過ごしてもらえようように、状態観察を行い自由に過ごせるように配慮している。表情や行動観察を行い変化を見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン期間にあわせてのカンファレンスをおこなっている。状態変化が見られた時はその都度行うようにしている。全職員が納得した対応ができるように話し合いをおこなっている。	面会時に本人の現状報告をした後、家族からの意向や情報を得て職員で共有し、計画に反映して一人ひとりに応える実践となるよう努めている。6か月に一度のモニタリングとアセスメントを行い、生活リズムを大切にしたいケアプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話内容や行動を詳しく記録に残すようにしており、それを参考にしてのプランづくりや変更をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報収集を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を尊重し、かかりつけ医の決定をおこなっている。又適切な医療が受けられるように受診の援助をおこなっている。	入居前から「開内科医院」をかかりつけ医としている利用者が多く、そのまま継続している。当医院には3人の医師がおり、往診可能で、利用者の健康管理ができています。専門科受診は、家族に連絡した上で職員が同行しており、家族の安心と負担軽減に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医院の看護師と連絡を取り合い、情報共有を行っている。緊急時の24時間体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、入院先の医師・看護師に情報提供を行い、情報交換を密に行っている。面会もまめに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの説明を入居時ご家族におこない、同意をもらっている。状況により再度の説明と確認をおこない、本人の望む最期が迎えられるようにスタッフ全員で取り組んでいる。	開設時から看取りを行う方針であり、入居時に「看取りに関する指針」を家族に示し、説明して同意を得ている。指針には具体的な支援内容・医療関係との連携等、詳細に記しており、家族の理解と安心に繋げている。職員も、ホームでの看取りは当たり前と考えてケアに当たっており、直面した場合、休みの職員にも連絡してみんなでターミナルを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践で経験者についてもらいの指導は行っているが、緊急時対応の研修会は最近おこなえていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の消防訓練を地域の消防団と合同で年2回おこなっている。	法人全体で消防訓練を行っている為、その都度火元を変えており、出火場所によって避難場所が決められている。貯水槽から現場まで実際にホースを伸ばして放水する等、消防団の協力が得られている。昼夜に関わらず、緊急時に全職員に一斉メールが届く仕組みも作られている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれに合わせた会話(方言をつかったり)や声掛け対応を行っています。尊厳が損なわれないようにスタッフ間で声をかけ合い確認も行っています。	利用者の性格や個性を見極め、リビングでの席の配置にも気を配り、一人ひとりの人格を尊重した対応が見られた。排泄時の声かけは、他利用者にわからないように配慮しながら、その人にきちんと伝わるような言い方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り日常生活の中のことは決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重し行事や日常生活などの参加を無理強いしないようにしている。本人の性格や日常生活習慣を把握し、それぞれのペースでの生活が送れるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服をきめてもらったり、化粧品なども以前から使っているものを用意するようにしている。髪型なども気がけて整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	提供する食事は食欲がそそるよう、興味が持てるように盛り付けにも気がけている。行事食も工夫し、時には食べたいものを尋ねその日のうちに提供するなどしている。かたづけなどは難しいが食材の処理などは依頼して手伝ってもらっている。	毎日の食事は手作りにこだわっており、職員がローテーションで調理している。2つのユニットでメニューは異なっており、利用者の嗜好や食べる量等を把握しておいしい食事を提供する努力が見られた。寒い時は具沢山の汁物にする等の工夫もある。職員は、それぞれのテーブルに着いて持参の昼食を食べながら、食の進み具合を確認し、一口でも多く食べて貰いたいと考えている。訪問当日は郷土料理の「押し包丁」がふるまわれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ入居者にあわせた水分の提供、栄養補助食品の提供をおこなっている。提供時間や提供の仕方にもそれぞれの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と臥床時に口腔ケアを行っている。本人の状態にあわせて、声かけやセッティング、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握をおこなっている。適切な時間や状態に声かけや誘導が行えるようにしている。声にならない訴えなども見逃さないように様子観察をおこなっている。	トイレでの排泄を目指して、表情や仕草をよく見て察知している。排泄チェック表は一週間分を一覧表にして確認しており、薬剤調整は看護師と相談しながら適切な使用で、自然排泄を促している。又、9種類のおむつを一人ひとりに合わせて使い分けており、その価格と共に家族に示して納得が得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量と水分摂取量、排便パターンを確認しながら適切な誘導と下剤の調整をおこない、不快な排便が出来るようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の実施のほかに、皮膚状態を見ながらの入浴の回数や希望時の入浴対応を行っている。現在は日中のみの対応である。しょうぶ湯やゆず湯なども行っている。	週2～3回、朝から夕方までの時間帯に本人が入浴したい時に入浴しており、マンツーマンで介助している。介護度の高い人は介護に要する時間がかかる為、他職員の手助けが必要な際には、浴槽から声を掛けて他職員が手助けをする方法で、安全にスムーズな支援が来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごしてもらい、夜間も眠たくなるまで好きなように過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬剤内容をファイルし把握に努めている。薬の変更も情報共有ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた支援をおこなっている。(現在、夕食時にビールの提供を行っている入居者もいる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば可能な限り対応している。	初詣には、何回かに分けて出かけている。その他、誕生日のお出掛けがある程度で、外出の機会は少ないようである。日常的には希望により、ホーム周辺の散歩に出て、外気に触れる機会としている。	家族の協力を求めるなど、もう少し外出の機会を増やすための工夫が望まれる。また、希望を言えない利用者への対応にも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの管理能力に合わせての支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、暑中見舞いなどを手書きで書けるように支援している。希望があればお電話援助もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、温かい光や快適な風が取り込めるようにしている。季節の花などをかざったり、季節行事に合わせた飾りつけも行い季節感を感じられるように心がけている。	一つの玄関から、左右に2つのユニットに分かれており、両ユニットの間仕切りはオープン可能で、イベント時には開いて広く使っている。リビングには幾つかのテーブルが点在して置かれ、利用者にはそれぞれ自分の居場所がある。キッチンからは調理の音や匂いが流れ、隅にはガードで囲まれた石油ストーブの上にやかんが乗せられており、生活感がある、落ち着いた共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置し、ゆったりと過ごせるようにしている。人間関係を把握し座っている位置や会話内容なども把握しながら必要であれば移動などの対処も行うようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使っていた家具や布団の持ち込みをお願いしている。仏壇の持ち込みのあり、安心して生活できるような部屋環境作りに心がけている。必要にあわせての家具の配置換えも行っている。	両ユニットにそれぞれ畳敷きの部屋が3部屋配置されている。仏壇・整理タンス・加湿器等が置かれた部屋があり、その人の部屋として落ちついた雰囲気が感じられた。居室から出る事が難しくなっている利用者の部屋は、寝ながらでも楽しめるようにテレビ・ひ孫の絵・家族写真・誕生祝の色紙等、家族と職員の違いが込められた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた対応を行っている。職員間の情報共有も密におこなっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると(2号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来変わらず「最後まで住み慣れた場所で。そして最後まで自分の好きな事をしていたい。」この思いを大切に、私たちのグループホームはターミナルケアまでを取り組んでいます。また「ゆったり、楽しく、仲良く」と、少し変わった理念ですが、その意味を深く考えスタッフは心のこもったケアを行っていきたくと考えています。1日1日、今この時を大切に、入居者とスタッフが同じ時間を穏やかにすごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者家族からの要望をうけ「ゆったり、楽しく、仲良く」との分かりやすい言葉で作った理念を掲げ、スタッフ全員が共有し実践できるように努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流の場は見つけれられていない。同グループの地域密着型特養と合同で地域の清掃活動は実施しているが交流の場にはつながっていないのが現状である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでは地域の老人会の施設見学などの話が時々であるが実施には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、偶数月の第3木曜日に開催している。会議内容はとの行事や出来事を写真を使っての説明を行いわかりやすいようにしている。推進委員からのご意見はスタッフ間で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者へ、質問票を使って解釈不明な内容などお尋ねしている。また市事業の安心相談員の受け入れ協力体制をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ施設内での勉強会などをおこなっている。基準を満たした上でスタッフの知識向上につながるよう勉強会の内容を工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で声を掛け合い、ケアの方法が虐待に当たらないか振り返るようにしている。ニュースになった事例などは全スタッフに共有できるようにその都度記事を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し、適切な対応ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にご家族に説明を行い同意をもらっている。ご家族様からの質問などわかりやすく回答するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご質問やご意見はスタッフ間で共有し、必要であればスタッフ間での話し合いを行うようにしている。ご家族様の面会時は入居者の様子を説明しご意見など言いやすい環境になるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し、自由な意見が出来るような雰囲気作りをしている。参加できないスタッフからは前もって意見を聞いておくようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や、目標管理シート、職業性ストレス簡易調査票を活用し、勤務状態の把握と職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修会を開催したり、施設外への研修にも可能なかぎり、参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に参加し、意見交換を行っている。今年度ははるとの施設見学も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能であれば面談を行うようにしている。顔見知りの状態を作り入居時不安が少しでも減らせるようにしている。又ご本人様の今までの生活状態や環境、人生史なども把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを聞き出し、ケアの中に取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いやニーズをふまえ、適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフから入居者へたずねごとをしたり、お手伝いをお願いしたり、教えていただいたりという関係性を作るように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは面会時に状態報告をおこなったり、電話などでも報告を行うことがある。面会の少ないご家族様へは状況報告の連絡とともに面会依頼も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人生史をご家族様などからお聞きし、把握するようにしている。その情報をケアに役立てているが、関係性の継続はなかなか難しいところがある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考え席などのセッティングを行っている。入居者同士の会話などの職員が様子をうかがいながら状況次第で間に入るなどの対応をおこなっている。会話の援助もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があった場合にはその都度対応をおこなっている。施設での看取りをおこなった方は初盆参りなどもおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケアの実践に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様へ人生史などを尋ねている。また利用されてきたサービスなども把握し連携をとり、利用事業所からの情報をもらえるようにしている。知人や友人の面会時には会話からの情報を得たり、お尋ねするようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人のペースで過ごしてもらえるように、状態観察を行い自由に過ごせるように配慮している。表情や行動観察を行い変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン期間にあわせてのカンファレンスをおこなっている。状態変化が見られた時はその都度行うようにしている。全職員が納得した対応ができるように話し合いをおこなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話内容や行動を詳しく記録に残すようにしており、それを参考にしてのプランづくりや変更をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報収集を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を尊重し、かかりつけ医の決定をおこなっている。又適切な医療が受けられるように受診の援助をおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医院の看護師と連絡を取り合い、情報共有を行っている。緊急時の24時間体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、入院先の医師・看護師に情報提供を行い、情報交換を密に行っている。面会もまめに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの説明を入居時ご家族におこない、同意をもらっている。状況により再度の説明と確認をおこない、本人の望む最期が迎えられるようにスタッフ全員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践で経験者についてもらいの指導は行っているが、緊急時対応の研修会は最近おこなえていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の消防訓練を地域の消防団と合同で年2回おこなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれに合わせた会話(方言をつかったり)や声掛け対応を行っています。尊厳が損なわれないようにスタッフ間で声をかけ合い確認も行っていきます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り日常生活の中のことは決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重し行事や日常生活などの参加を無理強いないようにしている。本人の性格や日常生活習慣を把握し、それぞれのペースでの生活が送れるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服をきめてもらったり、化粧品なども以前から使っているものを用意するようにしている。髪型なども気がけて整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供する食事は食欲がそそるよう、興味を持てるように盛り付けにも気をかけている。行事食も工夫し、時には食べたいものを尋ねその日のうちに提供するなどしている。かたづけなどは難しいが食材の処理などは依頼して手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ入居者にあわせた水分の提供、栄養補助食品の提供をおこなっている。提供時間や提供の仕方にもそれぞれの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と臥床時に口腔ケアを行っている。本人の状態にあわせて、声かけやセッティング、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握をおこなっている。適切な時間や状態に声かけや誘導が行えるようにしている。声にならない訴えなども見逃さないように様子観察をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量と水分摂取量、排便パターンを確認しながら適切な誘導と下剤の調整をおこない、不快な排便が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の実施のほかに、皮膚状態を見ながらの入浴の回数や希望時の入浴対応を行っている。現在は日中のみの対応である。しょうぶ湯やゆず湯なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごしてもらい、夜間も眠たくなるまで好きなように過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬剤内容をファイルし把握に努めている。薬の変更も情報共有ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた支援をおこなっている。(現在、夕食時にビールの提供を行っている入居者もいる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの管理能力に合わせての支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、暑中見舞いなどを手書きで書けるように支援している。希望があればお電話援助もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、温かい光や快適な風が取り込めるようにしている。季節の花などをかざったり、季節行事に合わせた飾りつけも行い季節感を感じられるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置し、ゆったりと過ごせるようにしている。人間関係を把握し座っている位置や会話内容なども把握しながら必要であれば移動などの対処も行うようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使っていた家具や布団の持ち込みをお願いしている。仏壇の持ち込みのあり、安心して生活できるような部屋環境作りに心がけている。必要にあわせての家具の配置換えも行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた対応を行っている。職員間の情報共有も密におこなっている。		